

NEWS LETTER

今回はベルトの蛇行調整についてご紹介いたします。

■ベルトの蛇行状態



プーリーが**赤矢印方向**に緩んでいる場合、ベルトは**青矢印方向**に蛇行してしまいます。
⇒プーリーを赤矢印と反対方向に貼ることで蛇行が解消され、ベルトが元に戻ります。

■蛇行状態のチェックポイント



調整基準は距離及び隙間の大きい方に寄っているかどうかです。

ベルトが一周する間に・・・

- ・ A-a の寸法差が20mm以上ある場合
- ・ プーリーとVロープ(B)が接触したままの場合

溶接部が裏面にマーキングを行い、
チェックするポイントは同じ所で見ることが重要！

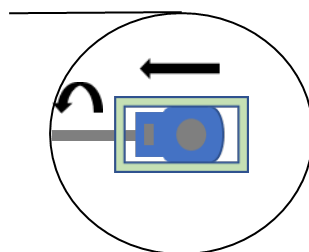
■テイクアップベアリングによる蛇行調整

1. プーリーの左右一方を調整側として決めておく。
両側で調整すると、初期テンションが大きく変わってしまうため、調整する人全員に共有してください。
2. ベルト右寄りの場合、調整側を左とすると、左のアジャストボルトorナットを1/4回転緩める。
3. ベルトが1～2周し戻り始めることを確認して、30分～1時間程観察を行う。
※じわじわと動くため、焦って大きく緩めるとベルトが脱線し、損傷の恐れがあるため要注意。
4. 30分～1時間後、再確認し移動量が足りなければ②～③を繰り返し、戻り過ぎたら1/8回転右方向に張る。
センターに留めるのは困難なため、B寸法が1周5mm以内、プーリーとVロープの接触が無ければ問題ありません。

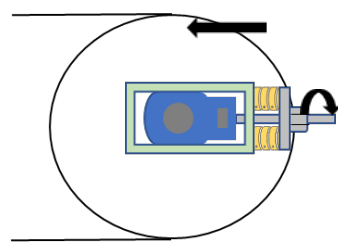
例) 進行方向右側に蛇行の場合

右に蛇行

調整サイド
(左側)



テイクアップベアリングの場合
アジャストボルトを緩める



スプリング式
テイクアップベアリングの場合
ナットを緩める

ベルトの蛇行は空運転時と熱が加わる実液運転時で異なる場合があるため、
蛇行調整は実液運転時に行ってください。定期的な実施を推奨いたします。